平成22年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立中小路小学校 教諭 黒澤 秀美

- 1 派遣期日 平成22年12月10日(金)
- 2 研修先 学校名 横浜市立宮谷小学校
所在地 横浜市西区宮ヶ谷6-7
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/miyagaya/>

3 研修内容

公開授業研究会：公開授業参観、シンポジウム、教科部会協議会

研究主題：主体的に学び、健康な生き方をつくる子どもの育成をめざして

～言語力を生かし、ともに考え高め合う授業づくり～

(1) 公開授業参観

○第2学年・算数指導者 清川 直美 先生

○研究主題にせまるために

・自力解決時間の十分な確保 ・身近な学習を生かした問題づくり ・個の考え方の共有化

○題材 「九九をつくろう」

○本時の展開

①問題提示

はこの中にさつまいもクッキーはなんこあるでしょうか。九九をつかって、くふうしてもとめましょう。

②課題解決の見通しをもつ。

③アレー図をつかい、個々が自力解決する→発表→話し合い

④まとまりをつくる、分けて考える、動かして考える、補って考えるなど、自分がどのやり方だったか分類しながら整理していく。

○まず、問題提示の場面で、みんなで行ったお芋掘りから話をつなげ、そのお芋を使って先生がクッキーを焼いてきたという設定で実際の箱を見せるところから、「えー食べたい」「本当？」などと輝く目で食らいついていた。作り物であると分かると「食べられないんだ。」とがっかりするも、見通しとしてたくさんの意見が出されていた。自力解決後の話し合いの中で、前に出て考えを述べる児童に、なぜそうなるのか、なぜそのやり方を選んだのかの質問が出され、きちんと答えていた。教師と子どもたちで出された意見を分類しながら、自分のやり方が誰と一緒にやったのかを振り返り、また、一つ一つのやり方に対して「まとまり方式」や「わけ方式」のようにみんなで言葉を作り上げていた。最後に、今日の学習でやったこと「まとまりをつくる、わけてやる、動かして考えるなど」をこれからの学習でも使えることを確認し、日常化を図っていた。

(2) 授業についての協議

○既習事項を使って新たな問題を解いていく。

○自分の言葉で話すその中に算数の言葉(直線、辺、角、〇〇の段など)をつかう。

○説明したくなる発問。

○扱う題材に魅力があることが大切。

○きき方、話し方のルールを身につける。「型を身につけると工夫が生まれる」

○ききたい、話したいと思わせる。

(3) シンポジウム参観

子どもの学びをつくる (教科部会)

- 参加者 コーディネーター、シンポジストを含む有識者 6名と 6年生児童 2名
- コーディネーターの進行により「子どもの学びをつくる言語活動」をテーマに話し合いが進められた。
 - ・言語活動とは、見えないものを見えやすくしていくこと。
(○○をつかって、こんなふうに解きました、、という説明)
 - ・板書のみで行うのではなく、操作を重視した授業づくり。
 - ・○○を知った (事実) それはなぜか (原因) どうすればいいか (対策)
 ※対策を練っていく過程にこそ言語活動を生かせるチャンスがある。
 - ・新聞づくりにはいろいろな要素が含まれている。
(見出しを考える、まとめ方を工夫する、考えをもつ)
 - ・教師が何を考えればいいかを明確にすると、、どれができてどれができないか、誰ができて誰ができないかがわかり、できないものをできるようにするために、どのような手だてを講じればよいか具体的になっていく。
 - ・グループ作りの目的をはっきりする。
 ※教師が支援しなければならない子、友達の支援で何とかなる子、一人でやり遂げられる子がいる。
 - ・子どもとの言葉のキャッチボール。
 ※受け止めてあげる。すると、さらに伝えるための言葉を自分で探すようになる。

4 感想

シンポジウムに参加していた 6 年生の児童 2 名は、大人の中で、しかも知らない参観者が大勢目の前にいても、堂々と意見を述べていた。もちろん台本や練習があつてのことだろうが、その話す内容は、日々の授業での積み重ねをしっかりと感じさせるものだった。「子どもの学びをつくる」手だて (おぜんだて) が日々の活動の中でしっかり組み込まれ、子どもたちが自分の意志で学習を組み立て、その学習を成立させるための言語活動を十分に行っていることが容易に想像できた。

その最後に、児童から「これからこうなるために、こんなことをこんなふうに取り組んでいきたい」との話があつたが、コーディネーターからも、自分がこうなりたいというめあて (目標) をもつことが大事であること、また、意見を伝えあうことは自分を深めていくことになるとの話で締めくくられたことが印象的であった。